

ホクコーオルトラン®粒剤

■種類名：アセフェート粒剤
 ■有効成分：アセフェート-----5.0%
 ■PRTR法指定物質：アセフェート [第1種] -----5.0%

■登録番号：第13177号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1973.10.30
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：4年
 ■包装：1kg×12袋、3kg×8袋
 20kg×1袋(北海道のみ)

【特長】

- 広範囲の害虫に効果のある有機リン系殺虫剤。
- 浸透性が強く、根や葉から吸収されて作物の体内に行きわたり、長期間各種害虫の発生を抑え省力的な害虫防除ができる。
- 株元散布や定植時処理ができる。

【適用内容】(2020年10月14日現在)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ、コナガヨトウムシ アブラムシ類	3~6kg/10a (1~2g/株)	定植時	1回	植穴処理	2回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は1回以内)
	アザミウマ類	6kg/10a (2g/株)	育苗期		散布	
	アブラムシ類	6g/m ²				
トマト	アブラムシ類 オンシツコナジラミ	3~6kg/10a (1~2g/株)	定植時		作条散布又は 植穴処理	1回
なす きゅうり	アブラムシ類 アザミウマ類 オンシツコナジラミ					
ピーマン	アブラムシ類				2g/株	
はくさい	アオムシ、コナガヨトウムシ アブラムシ類	3~6kg/10a (1~2g/株)			植穴処理	
ブロッコリー	ヨトウムシ アザミウマ類	6kg/10a (2g/株)			株元散布	
だいこん	アオムシ、コナガアブラムシ類	3~4kg/10a	は種前		作条散布	2回以内 (株元散布は1回以内、散布は1回以内)
かぶ	アブラムシ類	4kg/10a	収穫21日前まで		株元散布	
ごぼう		3~6kg/10a	収穫75日前まで			
れんこん		4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布 無人航空機による散布	2回以内
ばれいしょ	3~6kg/10a (1~2g/株)	植付時	1回	作条散布	3回以内 (植付時の処理は1回以内、植付後は2回以内)	
えだまめ	ハスモンヨトウ	3~6kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	生育期株元散布	3回以内
なばな類 こまつな	アブラムシ類	6kg/10a	定植時	1回	植溝土壌混和	1回
			は種時		播溝土壌混和	
			は種前			

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
花き類・観葉植物 (きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たदैいを除く)	アブラムシ類 アザミウマ類	3~6kg/10a	発生初期	5回以内	株元散布	5回以内
	ヨトウムシ類	6kg/10a				
宿根スターチス	コガネムシ類幼虫 ヨトウムシ類	3~6kg/10a				
	アザミウマ類 アブラムシ類					
カーネーション	コナガ、ヨトウムシ類	6kg/10a				
アリウム	ネギコガ ヨトウムシ類	3~6kg/10a				
	アザミウマ類 アブラムシ類	6kg/10a				
きく	ネキリムシ類 ハモグリバエ類 ヨトウムシ類	6kg/10a				
	つつじ類	ツツジグンバイ				
さくら(幼木)	ケムシ類					
たदैい	アブラムシ類	刈成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り50g	定植時	1回	本剤の所定量を刈成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する。	1回
		6kg/10a			株元散布	
いぐさ	イグサシウムシガ	4kg/10a	生育期	2回以内	湛水散布	2回以内
芝	スジキリヨトウ シバツトガ	10kg/10a	発生初期	5回以内	全面散布	5回以内
	タマナヤガ	5~10kg/10a				
たばこ	ヨトウムシ ネキリムシ アブラムシ類 アザミウマ類 ジャガイモガ ヤサイゾウムシ	3~6kg/10a	移植前	1回	作条散布後 土壌混和	2回以内
	アブラムシ類		本畑初期		株元散布	

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 土壌が極度に乾燥している時は使用しないこと。
- 芝のスジキリヨトウ、シバツトガ及びタマナヤガの防除に使用する場合、散布後10アール当り500~1000%の散水処理は有効である。
- いぐさ・れんこんに使用する場合は、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも7日間は通常の湛水状態を保ち落水、かけ流しはしないこと。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 間引き菜、つまみ菜に使用しないこと。
- みずかけな(水掛菜)、カラー及び花はずに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用后14日間は入水しないこと。

- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- たばこに使用する場合には次の注意事項を守ること。
 - ◆ 本剤が葉に付着すると薬害を生ずるのでかからないように注意して散布すること。
 - ◆ 本剤を誤って過剰に使用した場合は薬害(下葉の黄変、葉縁の褐変)を生ずることがあるので散布量を厳守すること。
 - ◆ ヨトウムシの防除については、処理時期から発生までの期間が長くなった場合には効果が劣ることがあるので、その場合には他の散布剤を併用すること。
- 本剤を無人航空機で散布する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 専用の粒剤散布装置によって散布すること。
 - ◆ 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - ◆ 散布薬剤の飛散によって他の動植物等に影響を与えないよう散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤の解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。